

# あまみ 民医連

2023年11月20日発行

第308号

【8面オールカラー】発行部数2,970部

発行元／青森県民主医療機関連合会  
所在地／〒030-0803 青森市安方1丁目11-6  
安方クリニック 1F

TEL. 017 (723) 4076 FAX. 017 (773) 5326  
URL <https://aomin.jp/> e-mail [info@aomin.jp](mailto:info@aomin.jp)

全日本民医連 出会いと学びあふれる2日間

## 第16回 学術・運動交流集会に参加して

10月13日(金)、14日(土)に開催された学術・運動交流集会は、4年振りに集合開催で行なわれ、全国から1,000人が金沢市の会場に集まりました。

1日目は社会学者で東京大学名誉教授の上野千鶴子氏の記念講演と18テーマの分科会(ポスターセッション)が行なわれました。2日目はテーマ別セッション「住み慣れた地域で食べることにこだわる～食に寄りそう取り組みと職種連携～」、「LGBTQ当事者が安心してかかることのできる事業所

を作る取り組みの交流と前進を」、「人権しゃべり場 in 石川～social actionやるんよ～」の3つのテーマに別れて学習交流を行いました。

青森民医連からは分科会に36演題エントリー、41名が参加しました。

詳細は民医連新聞(11月6日)に掲載されていますので、ご覧ください。

学術・運動交流集会に参加するため加賀百万石の面影が残る金沢に行ってきました。

講演は社会学者であり、高齢者の介護とケアについて研究されている上野千鶴子氏による「最期まで住み慣れた地域で：多職種協働が支える在宅生活」のお話でした。超高齢社会の中で独居高齢者が増え続け、ひとりで死を迎えることも珍しくはありません。“自分らしい死”を迎えるために、病院や地域が果たす役割について学びました。ケアの役割を個人に押しつけないため、介護保険を守っていかなければならないという気持ちが強まりました。

ポスターセッションでは、北は北海道、南は沖縄まで全国から600を超える演題が出されました。テーマは職場、介護、社会的困難事例、無差別平等の医療、人権、社会保障、平和など幅広いテーマの中、個人や職場での取り組みが紹介されました。各職種の強みや地域特有の問題(外国人の多い地域での医療など)に触れることが出来ました。私は、「若者の性と健康を守る取り組み～『産婦人科への一歩@弘前』の作成を通して～」という学生時のプロジェクト(相談場所として産婦人科を受診する意義を発信し、性に関する知識をまとめた冊子の作成)について発表しました。光栄なことに民医連表彰の推薦候補に選んで頂きました。

他にもテーマ別セッションなど盛りだくさんの企画でした。学び、出会いを通して自分が大切にしたい医療像をより一層深めた2日間になりました。

(健生病院 宮澤千裕)





## 2023年度 初期・入職1年目研修

### ～『民医連綱領』を学ぶ～

9月21日(木)、29日(金)、浪岡中央公民館にて、県連初期・入職1年目研修を開催しました。この研修は、『民医連綱領』の学習を通して民医連の歴史や理念を学び、無差別・平等の医療と福祉を目指す民医連職員として大切にすべきものは何かを具体的に考え、実践できるような機会として位置づけています。

今回は久しぶりに集合形式で、“無差別・平等の医療・福祉って何だろう？それを実現するためには？”を

テーマにグループワークを実施しました。テーマと真逆の差別・不平等の医療・福祉とは何かを考え、そこから自分たちの目指す無差別・平等の医療と福祉を討議しているグループや、患者が必要な治療に拒否的でも、積極的に関わることが大事と話すグループもありました。参加者からは「他職種と意見交換をすることで、これまで自分にはなかった視点からの意見に触れることが出来た。」「研修を通じて、民医連活動が世間

を動かしたり無差別・平等の医療と福祉の実現に多く寄与したりしていると学んだ。」など、多職種と話し合うことで自分たちの視野を広げると共に、民医連の歴史や理念への理解を深めました。

これから先、様々な問題に直面すると思います。そんな時こそ、『民医連綱領』を念頭に、諸問題に取り組んでいきましょう。皆さんの成長を楽しみにしています。

(津軽保健生活協同組合 長谷川聖)



## 2023年度 初期・入職3年目研修

### ～困難事例を通し、基本的人権を守る為の取り組みを学ぶ～

10月18日(水)、26日(木)、浪岡中央公民館にて「困難事例を通し、基本的人権を守る為の取り組みを学ぶ」「ブックレット健康格差の原因よりSDHについて深める」「日々の業務や生活の中で人権とのかかわりを見つけ、社会保障との結びつきを学ぶ」を獲得目標に2023年度初期・入職3年目研修を開催しました。

今年度の研修は、事前に困難事例の解決方法等のレポートを作成し、

当日SDHについての講義を行った後、グループワークで別の困難事例について話し合い、その結果を事前レポートと照らし合わせる内容でした。

前年度は、個人学習を基本として、ブックレット「健康格差の原因」よりSDHについて深め、課題の困難事例の原因、解決方法等のレポート提出までを研修としていました。今年度は、集合研修を加えることで、グループワークを通じて多職種の意

見を聞くことにより別の視点での考え方も学習できる研修としました。

普段なかなか困難事例に触れない職員は、今回の研修で事例に触れていただき、事例に触れる機会がある職員も改めて多職種との意見交換をすることで、民医連職員として、何を考え、どのように行動するのか、今後の業務、運動を進めていくヒントになればと思います。

(株式会社ファルマ 鈴木健仁)



9月9日(土)10日(日)、第45期全日本民医連薬剤部門代表者会議が、東京の有明TFTビルで4年ぶりの対面で開催されました。

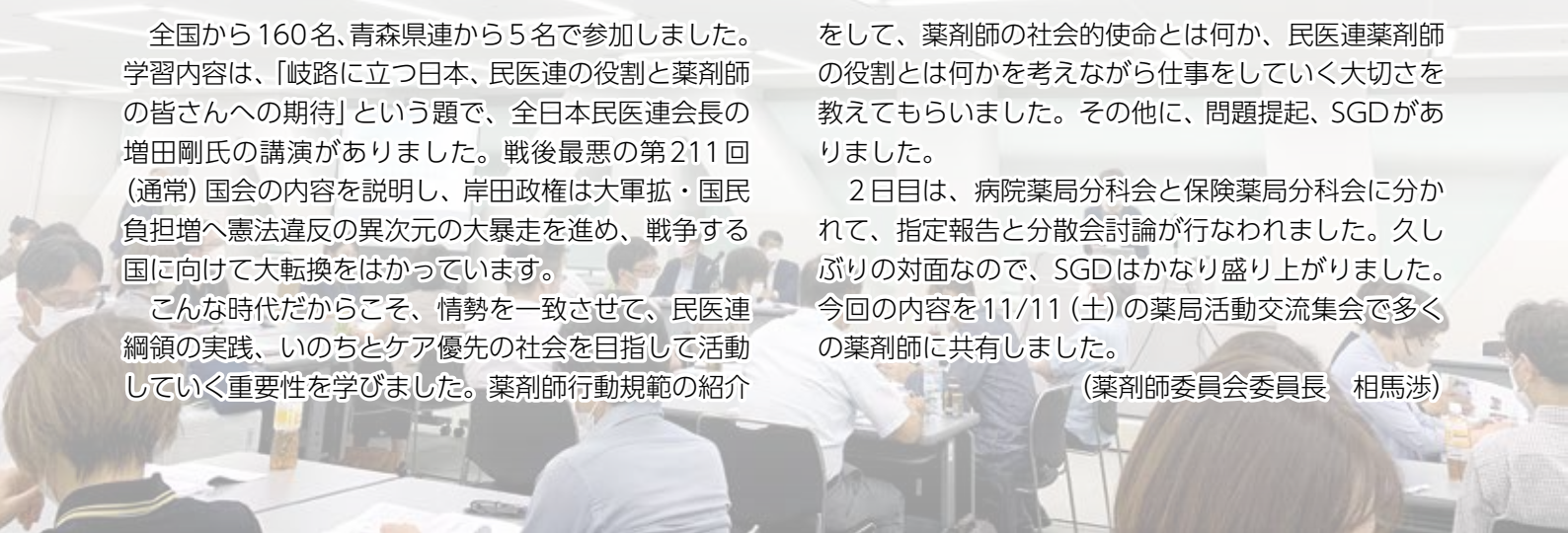
全国から160名、青森県連から5名で参加しました。学習内容は、「岐路に立つ日本、民医連の役割と薬剤師の皆さんへの期待」という題で、全日本民医連会長の増田剛氏の講演がありました。戦後最悪の第211回(通常)国会の内容を説明し、岸田政権は大軍拡・国民負担増へ憲法違反の異次元の大暴走を進め、戦争する国に向けて大転換をはかっています。

こんな時代だからこそ、情勢を一致させて、民医連綱領の実践、いのちとケア優先の社会を目指して活動していく重要性を学びました。薬剤師行動規範の紹介

をして、薬剤師の社会的使命とは何か、民医連薬剤師の役割とは何かを考えながら仕事をしていく大切さを教えてもらいました。その他に、問題提起、SGDがありました。

2日目は、病院薬局分科会と保険薬局分科会に分かれて、指定報告と分散会討論が行なわれました。久しぶりの対面なので、SGDはかなり盛り上がりました。今回の内容を11/11(土)の薬局活動交流集会で多くの薬剤師に共有しました。

(薬剤師委員会委員長 相馬渉)



## 2023年度

### 県連二年目 薬剤師研修

8月26日(土)、浪岡中央公民館で、薬剤師二年目研修を開催しました。4名の2年目薬剤師を対象とし、2名の講師よりそれぞれ『論文の読み方について』、『外用薬を化学的にみよう』のタイトルで研修を行いました。



「論文の読み方について」では、まず論文を読むにあたっての基礎的な知識、各ポイントを学習し、各自で論文を評価する必要性について理解を深めました。次に、その論文をもつて、症例の患者さんへの返答を検討するという2段階形式で講義が進行しました。

休憩中には、病院のコロナ入院状況や、薬局のコロナ治療薬の調剤状況などが情報交換され、コロナ患者が増え、病院・薬局ともに、業務に負担がかかっているようでした。

「外用薬を化学的にみよう」では、外用ステロイ

ドを多剤と混合した場合、ステロイド本来の効力の変化があるのか、各自の答えを発表しました。その後には正解と、考え方について講義を受けました。薬剤師は科学者であり、他医療スタッフへの情報提供を、科学的な立場からしっかりとできなければならぬと改めて認識しました。

昨年引き続き参加形式を対面で開催したことで、対面ならではの良さを改めて実感しました。質問や細かいやり取りが対面ではやりやすく、お互いの表情も見えやすいため、理解したかどうかを確認できる点も講師にとつて良かったと思います。

最後に、今後もより良い医療を提供するため、薬剤師は日々学習することを再認識し、身につけた知識や技術を患者のために生かしていただきたいと思

います。(健生病院 赤平祐一)

## 2023年度

### 県連一年目 薬剤師研修

9月30日(土)、浪岡中央公民館で、薬剤師一年目研修を開催しました。今年入職した2名の薬剤師を対象に、『民医連の薬剤師として薬剤とどう向き合つか』の講演の後、『民医連薬剤師として薬をどう見るか』のタイトルで講師と意見を交わしました。

講演では、薬剤についての基本的な考え方、薬価制度、薬害、利益相反、SDHに加え、現在問題となっているジェネリック医薬品不正製造についてと盛り沢山な内容でした。HPVワクチンについては接種対象者だったこともあり色々な目線で考えることができたようです。

後半は講師と意見を交わす時間をしっかりと、前半の講演についてだけでなく、薬剤師として社会人として半年が経過してモヤモヤしていることなどのディスカッションタイムとしましたが、なかなか思いをまとめて伝えられなかった印象でした。講師

陣のやりとりだけでも勉強になったと感想にはありましたが、来年(二年目研修時)も意見を交わす時間を設けて、自分の意見を発言できるか?など成長を見てみたいと感じました。

研修は2時間と短い時間でしたが、内容は濃い研修で、受講者からも今後の成長に期待を持てる感想が寄せられました。

(青森民医連 立花典明)





# 全日本民医連「人権としての社保運動交流集会」

9月21～22日、全日本民医連「人権としての社保運動交流集会」が4年ぶりに東京で現地開催され、全国から108名参加しました。望月衣塑子氏（東京新聞記者）の学習講演「軍拡に突き進み、戦争する国へ私たちはどう抗うのか」より、望月氏自身が取材した視点と切り口で、GDP2%への防衛費政策、安保3文書の閣議決定やG7広島サミットでの核抑止論の失態など岸田内閣の大問題を論じ、「戦争したい人たちに戦争させてはいけない」と語気を強めました。特に、麻生太郎国会議員の「戦う覚悟です」発言は、アメリカと一緒に戦争への道を突き進む姿勢そのもので許されません。日本には9条をはじめ素晴らしい憲法があります。

参加して、全国の仲間たちの社保、平和運動の報告を聞き、その頑張りにパワーをもらいました。「人権を守り公正でいのちとケアが大切にされる社会の実現」を目指して、私自身がパイプ役となり、職場の仲間と共に手を取り合って運動を広げていきたいと思えます。

（大野あけぼの薬局 宮本しのぶ）

## 2023年 薬害根絶デー

8月24日(木) 薬害根絶デーの街宣を

あけぼの薬局各店で行いました。

1999年8月24日に厚生労働省前庭に「薬害根絶誓いの碑」が建てられ、翌年からこの日は薬害根絶デーとなり、各地で薬害根絶のための取り組みが行われています。薬害とは「医薬品の有害性に関する情報を加害者側（製薬会社や国）が軽視・無視した結果、社会的に引き起こされる人災的な健康被害」のことを言います。薬には主作用の他に副作用があり、薬によっては眠気や胃の不調など目的以外の症状が出る場合があります。この副作用と薬害との違いは、有害作用があることを知りながら無視・軽視し不適切な使用を続けた結果、多くの人が重大な健康被害を受けるといった社会的要因が加わる有害事象であるという点です。

あけぼの薬局では毎年薬害根絶デーの朝に薬局前で街宣活動をしています。街宣活動は、これまでに起こったサリドマイドやスモン、薬害HIV感染等の薬害を繰り返さないように、地域の方々に薬害について

知っていただき、そして薬剤師が薬に対して正しく厳しい目をもつという薬を扱う者としての責任を今一度肝に銘じる目的があります。この日の取り組みとしてもう一つ、服薬指導の最後に薬害についての説明が書かれたポケットティッシュを患者さんに渡しています。デザインは職員が考えました。

薬は病気の治癒、病気の悪化を防ぐために必要不可欠です。毎日の服薬を安心・安全に行っていただくため、薬で気になることや困ったことがあれば、是非お近くの薬局・薬剤師にご相談ください。

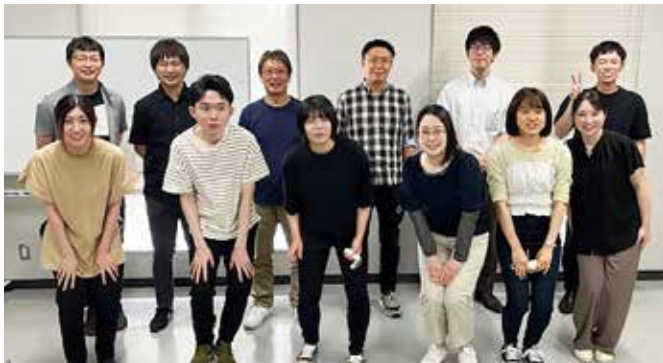
（大野あけぼの薬局

薬局長 野藤なつみ）



2023年8月24日 薬害根絶デー写真(大野店)

# 人権としての 社保セミナー第2クール



9月15日(金)～16日(土)宮城県多賀城市中央公民館を会場に全日本民医連人権としての社保セミナー第2クールが開催されました。一日目は、東日本大震災復興・復興支援みやぎ県民センター事務局長の小川静治氏より「宮城県の復興の現状と課題」をテーマにお話いただきました。震災から12年半が経ち、多くの人々が震災を忘れてしまっているように感じます。しかし、被災者からするとまだ12年半しか経っていないのです。講義を受け、自治体によっても対応が大きく違うこと、そのことで被災者の方々の想いに差があることがわかりました。その後、塩竈市にある公営清水沢東住宅へ移動し、グループごとに災害公営住宅の方々と懇談をしました。お話をしてくださった方々はとても前向きで、困ったことは特にないとおっしゃっていましたが、災害公営住宅で友の会

の集まりがあったり、困ったときに相談できる市議がいたり、「居場所」があることが前向きな考えに繋がるのではないかと感じました。

二日目は、宮城民医連副会長の矢崎とも子氏より「宮城民医連の災害公営住宅調査」の報告がありました。アンケート調査から、コロナ禍で健康状態が悪くなり、経済状況も悪化した割合が高いことや、今後、病気や収入・生活費を心配している方が多いことなどがわかりました。アンケート調査をしなければ見えてこないものがあり、毎年行っている調査の重要性を感じました。最後は、グループディスカッションと第3クールに向けてどのように進めていくかを話し合い第2クールが終了となりました。

私は、今回助言者として参加していますが、実際に住んでいらっしゃる方のお話をお聴きすることができ、とても意味のあるセミナーだったと感じています。まだまだ、「復興」とは言えない状況がたくさんあります。報道されない事実に対して、目を背けずに寄り添っていききたいと改めて感じました。

(ファルマ弘前薬局 工藤由希子)



人手不足が課題であることなどどこも同じような現状を知りました。ニュースなどで、政府は防衛費を増やしていることは知っていましたが、増やした費用を医療や福祉に向ければ国民の医療費の自己負担を減ら



10.19

いのちをまもる総行動に

参加して

10月19日に東京都の日比谷公園で「いのちをまもる総行動」に参加しました。

私は介護福祉士の立場として参加しましたが、保育士、看護師、医師など福祉医療関係の方も参加されていて、様々な職種の現状を知ることができました。給与が低い、手当が出ないなどの理由で福祉医療業界から手を引いてしまふ、若い人が辞めてしまふ

したり1人あたりの年金も増やすことができたり、また働き手の人手不足も改善できたりするのではないかと考えるきっかけにもなりました。

今回の経験を活かし普段から政治に目を向けること、このような集会に自ら参加し少しでも現状を訴えていこうと思いました。

(ヘルパーステーション  
はるかぜ 倉岡楓子)



「ケア」がもっと大切にされる社会の実現を！

## 第44回民医連の医療と研修を考える医学生をつどい

# 秋のプレつどい in 千葉 「共に生きる-ひとりひとりの幸せをかなえる社会へ-」



9月30日(土)～10月1日(日)、千葉市 TKP ガーデン千葉で「第44回民医連の医療と研修を考える医学生をつどい 秋のプレつどい in 千葉」(以下、つどい)が開催され、全国から医師9名、医学生73名、職員77名、合計159名が参加しました。

今回のつどいのテーマは「ヤングケアラー」。初日は「ヤングケアラーとしての経験、それが残した傷跡」と題し、当事者でもあった黒田祥子氏(日本福祉大学・全国こども福祉センター)と、齋藤真緒氏(立命館大学産業社会部教授)の動画による講演と、オンラインでの質疑応答がおこなわれました。講演後はグループに分かれてSGDを行いました。

2日目は加村梓氏(健生病院小児科医)より、診療場面での虐待事例からその後の支援について、より良い子育て方法、学生時代の経験、女性医師としての選択・キャリア形成などについての講演、その後SGDを行いました。

2日間を通して、いのちとケアが大切にされるケアフルな

社会、共生について深く考えることが出来ました。政府は「こどもの視点でこどもの権利を保障し、健やかな成長を誰一人取り残すことなく社会全体で後押しする」と基本方針で掲げていますが、これには実効性のある中身が必要です。個々の問題ではないという認識をもった寛大な社会を作る必要があります、こどもが自分の人生の主人公になれる支援が求められているのだと改めて思いました。

今回青森からは、医師、医学生を含む13名で参加してきました。多様性や個々の尊重を妨げている社会的要因や、一人ひとりの幸せを叶えることができる社会作りの必要性を講演やSGDの中で学ぶことができました。特に医学生にとっては、将来医師になった時に何ができるのかを考えさせられる良い機会になったと思います。

初めての参加で緊張しましたが、全国の事務方の皆さんや医学生と交流を深めることができ、大変有意義な時間でした。

(青森民医連 奥崎大)

2023年

### 薬学生のつどい 人権について

「より良い人間関係を築くために」

9月9日(土)、オンラインにて「2023薬学生のつどい」が開催されて、学生23名、職員14名が参加しました。学習講演の講師は岡山県労働学習協会事務局長の長久啓太氏で、今回のテーマである「人権」について話していただきました。

講演内容は講師自身の経験や日本国憲法など様々な視点から人権について学び、参加者からは「相手を傷つけるつもりはなかった」「冗談だった」など「行為者」の無自覚などの問題点や、知らず知らずのうちに誰かを傷つけている可能性があること、そのときに気づかなくても「ああ言ったのはまずかったのではないか」「どう思っただろうか」と内省し自らも学ぶことで「気づく力」をアップデートできることなど、人権の出発点は「自分」であることを改めて考えさせられたなどの感想がありました。

また、アイスブレイクや交流企画を通して親睦を深めたところで「薬剤師に何でも聞いてみよう！」で薬剤師の業務内容や学生時代の勉強方法などについて学生からたくさん質問がありました。

回答者は各県連の病院・薬局薬剤師で、多角的な視点から様々な意見が飛び交い大変充実した時間となりました。

ファルマ弘前薬局  
小田桐由衣



助産師講座 ～現役助産師の経験から学ぶ、資格取得からお仕事の内容まで～

## 2023年9月 津軽保健生協 看護奨学生会議(ナーシング講座)



9月2日(土)津軽保健生協本部にて看護奨学生会議を開催しました。今回は「助産師講座」ということで、奨学生以外の学生参加も促すために「ナーシング講座」として広く参加募集しました。当日は22名(看護学生16名と高校生6名)の参加となりました。

みなさん緊張した面持ちで来場し、少しシーンとした中で始まりました。まずは緊張をほぐすために4～5人でグループを作ってもらい自己紹介を行いました。看護学生だけでなく高校生も参加していたため「えっ?高校生なの?」や「同級生なんです。会場来て、参加してるからビックリして。これに申し込んでるの知らなかったあ」と驚きの声や笑い声があちこちから聞こえてきました。自己紹介だけとは思えないほど打ち解けて、司会者が終了を伝えるタイミングがわからなくなるほど、盛り上がりました。

自己紹介で場が和んだところで、健生病院の助産師より「助産師とは」「助産師になるためには(養成学校や法人奨学金制度の話)」「健生病院での助産師の仕事」について、ご自身の経験を踏まえて講義をしていただきました。助産師の仕事は「すごい仕事だが怖さもある」というお産時の体験談を涙ぐんで聞いている方もいました。感想でも「絶対、助産師になれるように頑張ります!」「実際に助産師として働いている方のお話を聞いたことがなかったので、本当に良かった」と、現実も踏まえて女性のライフサイクルに関わる仕事であるということがしっかり伝わる講座でした。助産師だけに特化したお仕事説明会は、企画としてはあまりないと思います。しかし助産師を目指したいと考えている生徒・学生の思いに応じて、今後も継続して助産師に特化した企画を検討し、実施したいと考えています。(津軽保健生協 看対 阿保祥子)

# 県連介護事業所

## 乗り入れ点検・事前学習会

初めて県連の乗り入れ点検に参加させて頂きました。

まずオンラインで事前学習会が行われました。講師の資料を使った説明がわかりやすく、質疑応答では各々の法人や事業所事情の情報交換になり、学ぶことの多い学習会でした。

乗り入れ点検は津軽保健生活協同組合 健生介護センター 虹 居宅介護支援事業所を訪問させて頂きました。挨拶、事業所内の案内、説明の後に関係書類の確認、閲覧、質疑応答へと、事前学習会で確認した流れで進みました。

点検する側はあらかじめ資料を確認し、実際に閲覧する書類のチェック項目を絞っており、点検される側は、確認されるような書類を準備の上説明しやすいようにしていて、予定時間内に点検を終えることができました。書類や体制管理に不備がないかということだけでなく、業務の効率化という視点からも学ぶことができ、実りある内容だったと思います。

今回は点検者としてほぼ見学させて頂く形ではありませんでしたが、大変勉強になりました。

(生協ケアプラン・かいこの相談室 武部佳子)



## 秋の看護・介護ウェーブ



2023年秋の看護・介護ウェーブは、青森市イトーヨーカドー前にて施設前歩道での宣伝署名行動、地域への署名付きハガキの配布を参加者約80名にておこないました。

医師や看護師、介護士を含めた増員を正面に掲げてさらにとりくむ必要があること、憲法を無視して、戦争準備に入った岸田政権の政策を転換しない限り、社会保障費削減と医療費抑制は加速するばかりであり、軍事費を削いでいのちとケア最優先の社会へ、みんなで力を合わせていく必要があります。

秋以降のとりのみは、「全ての看護職員の処遇改善」と、「高等教育無償化」を求めるふたつの国会請願署名運動にとりくむこと、各県連で、知事や議会などに対して県連主体での要請行動をひきつづき強めること、全国看

護学生アンケート調査の結果も踏まえて“看護学生が経済的不安なく学び続けられる環境の整備を求める”運動にとりくむことなどが提起されています。また、年末に向けて利用率2割負担の対象拡大など介護保険制度の見直しが検討されています。2024年度の医療、介護、障害福祉の報酬改定が同時に実施されるトリプル改定の審議も終盤を迎えています。制度改悪の検討中止、介護報酬の引き上げ、大幅な処遇改善を求める声をいっそう広げていく契機にしていきます。

今後も患者・地域住民のいのちと暮らしを支える医療・介護・福祉の充実にむけ、私たちの声と行動を職場・地域で大きく広げていきます。(青森民医連 対馬康文)

## 県連事務局人事往来

津軽保健より出向して参りました、三上智子と申します。新しい業務に就くにあたり、期待と不安どちらもありますが、一步一步できることを増やしていきたいです。出身は弘前市(旧岩木町)。好きなものは、動物、読書、ゲーム、ホラー、人の少ない場所。最近のささやかな夢は、お友達とお酒を飲みながらボードゲームをすることです。これからお世話になります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

着任 **三上 智子**  
(津軽保健生活協同組合  
→青森民医連弘前事務所)



帰任 **佐々木 悠人**

帰任先 津軽保健生活協同組合  
帰任日 10月31日

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

# いつでも元気

MIN-IREN

2023 12月号 380円 **好評発売中**

民医連 70年 **9条の碑**

【けんこう教室】 認知症世界の歩き方(下)  
高齢者の移動手段 確保して 滋賀 レッツ脳トレ

まちなか力 新潟県 弥彦村

【食と健康】 年越し中華風鍋

発行＝青森県医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター6階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657



# うちの メコッコ

vol. 75

♡ name  
あい  
愛依

♡ age  
1歳9か月



元気いっぱいなお姉ちゃんが一緒にいてくれるからか、1歳になる前には独り歩きを始め、今では階段も上手に上り下りできるようになりました。基本的には転んでもぶつかっても泣かない子ですが、保育園に通うようになってからは風邪や胃腸炎などで体調を崩すことが多く心配していました。少しずつ体力と免疫力をつけ10月で1歳9か月になりました。お姉ちゃんが遊びに誘うと「はい！」と言って後を追いかけていく姿や、どんな色が好き？と聞くと必ず「青！」と言ってくれるところ、お手伝いをしようとお皿運びをしてくれる姿は私にとって毎日の癒しになっています。甘えん坊で私の足にコアラのようにしがみつく姿も困る反面可愛くて。子供が2人になって食事もお風呂も寝かしつけも日々ドタバタですが、2人の笑い声と笑顔にいつも元気をもらっています。

(介護付有料老人ホーム生協たむかいの家 長瀬麻衣子)

## 私の三つ星★★★

### オススメ つねた食堂

私の地元青森市浪岡北中野にある有名店、つねた食堂を紹介します。

営業時間は月～金 11:00～14:00、土日は休みという強気営業。営業時間の短さもあり、とにかくいつ行っても混んでいます。店内は狭く、カウンター6席と4席ほどの相席テーブルがひとつあるだけです。食べ終わったらすぐ出ることがマナーです。



おすすめはチャーシューメン(900円)です。ネギとしょうがの香る、定番だけどありそうでないアッサリ煮干しスープ、噛み応えのあるしっかりちぢれ麺、ややピクがかった低温加熱チャーシューとすべてが絶妙のバランスで一体化しております。

また、営業時間はあいまいで10時過ぎにはちゃっかり開いていたりします。駐車場は店舗前に4台程度しかなく、路上駐車は当たり前、道路交通法を遵守する私にとっては来店ハードルはなかなか高いです。車を止められずに諦めることもしばしばあります。比較的13時30分頃にワンチャン駐車でできることが多いです。日頃の行いの良い人はすんなり駐車できるでしょう。



常に混んでいますがラーメン好きでつねた食堂未経験の方はぜひ味わってみてください。

(健生クリニック 鎌田憲悟)

## 11月 2023年11月 第56期第19回理事会報告

- >> 会長あいさつ
- >> 全日本民医連理事会報告関係
- >> 県連出向人事
- >> 決裁・承認事項
  - 県連・地協・全日本関係
  - 奨学生関係
  - 看護奨学金の増額
  - 各種委員会
- >> 協議事項
  - 2023年度上半期の経営報告
  - 学術運動交流集会実行委員会報告
  - 新型コロナウイルス対応について
  - 各法人・事業所の対応状況について
- >> 医師・医学生関連
- >> 報告事項
  - 全日本民医連通達・声明、地協関係
  - 地協
  - 県連・共闘関係
- >> 各法人・事業所から

機関紙  
編集部まで  
info@aomin.jp

投稿募集!!